

オカヤドカリ類・オカガニ類の移動状況等について

平成30年5月

沖縄防衛局

1. オカヤドカリ類・オカガニ類の移動状況について

- 平成30年5月20日までに、約17万個体のオカヤドカリ類の移動措置を実施※。引き続き、陸上の改変区域においてオカヤドカリ類・オカガニ類の移動作業を実施予定。※H30.5.20時点ではオカガニ類の移動実績はなし。
- 平成29年6月～9月に事後調査として移動先で行った繁殖状況・移動経路調査において、ペットボトルの蓋を宿貝とした個体、宿貝の小さい個体、宿貝のない個体を確認しており、移植先のオカヤドカリ類・オカガニ類の過密状態、宿貝の欠乏状態が生じていることが考えられる。
- 環境影響評価書(P6-19-2-265)においても、「移動個体が多い場合は、複数の移動先(案)に分散して移動を行うことで、生息密度増加による影響の低減を図」ることとしており、「移動先(案)」の中から、新たな移動先を選定し、移動済みのオカヤドカリ類に対しては宿貝の供給を検討した。

表1 オカヤドカリ類・オカガニ類の移動実績
(H30.5.20時点)

移動先	オカヤドカリ	ムラサキ オカヤドカリ	ナキ オカヤドカリ	オカヤドカリ類 注1	合計
※重要な種の保護の観点から表示していません。	0	0	0	0	0
	41	19,963	32,228	9,094	61,326
	36	19,299	31,397	6,891	57,623
	3	14,616	9,406	1,942	25,967
	2	14,330	10,507	2,240	27,079
	82	68,208	83,538	20,167	171,995

注1 微小なため種の同定できない個体
注2 地点48はコムラサキオカヤドカリ・ミナミオカガニの移動先

※重要な種の保護の観点から表示していません。



(平成29年6月～9月の調査写真)

図1 オカヤドカリ類・オカガニ類の移動元及び移動先

2. 新たな移動先候補地の選定方法について

- 第5回環境監視等委員会(平成27年6月5日開催)において示した海岸性の対象種の移動先の選定手順に基づき、環境影響評価書で選定した「移動先(案)」の中から新たな移動先候補地を検討。
- 新たな移動先候補地の選定方法は、以下の手順で実施。

- ①「移動先(案)」候補地(19箇所)から第5回委員会で選定した現在の移動先(5箇所)を除く14箇所から選定。
- ②第5回委員会で宿貝の分布量が「劣る」と評価した場所(表2参照)は、宿貝を供給することにより生息環境条件を「最良」とすることが可能。そのため、宿貝の分布量以外の条件を満たす移動候補地として10箇所(表2:黄色の地点番号)を選定。
- ③調査から3年が経過していることから、オカヤドカリ類の移動先候補地の環境が維持されていることを確認するために、移動先候補地(10箇所)の前面海岸や植生の状況等の生息環境、オカヤドカリ類の生息状況調査を実施(H29.9)し、新たな移動先を選定。

表2 移動先についての選定結果(第5回委員会資料より)

地点番号	評価項目				
	砂浜と後背地との連続性	宿貝の分布量	産卵場適性	後背地の植生	浜の広さ
	○	×	○	△	△
	○	×	○	△	△
	○	×	○	△	△
	○	×	×	△	△
	○	△	×	○	○
	○	×	○	△	△
	○	×	○	△	△
	○	×	○	△	△
	○	×	○	△	△
	×	△	×	×	△
	○	×	×	△	△
	○	×	○	△	△
	○	×	○	○	△
	○	×	○	○	△

○:最良、△:良好、×:劣る

※重要な種の保護の観点から表示していません。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

図2 移動先候補地の位置(第5回環境監視等委員会資料より)

3. 移動先候補地の選定結果について

○オカヤドカリ類の生息状況を確認した結果を表3に示す。

○移動先候補地の10箇所における生息環境調査結果によると、いずれの海岸も前面海岸には砂浜があり、後背地の植生は主にアダンーオオハマボウ群落などの海岸植生からなる海岸林を有し、オカヤドカリ類の生息が確認された(表3)。そのうち、地点14 ※重要な種の保護の観点 は崖地の崩落や砂浜の減少が確認され、オカヤドカリ類の生息個体数も少ないことから、移動先候補地として不適と判断。

○以上のことから、新たな移動先候補地の10箇所のうち、生息環境の調査結果などで不適とした地点14 ※重要な種の保護の観点 を除いた9箇所を移植先の適地として選定。

○宿貝の供給方針

宿貝を供給するためのオカヤドカリ類の宿貝の収集は改変区域となっているキャンプ・シュワブ内の海浜部、第5回委員会の選定結果(表2)において「宿貝の分布量」が良好と判断された地点(地点59、143)の2箇所のほか、地点122(久志)、嘉陽でも実施。8,627個の宿貝(貝殻)を収集し、殻長3cm以上の宿貝には利用状況の確認のためにマーキング(77個)を実施(表4参照)。繁殖状況・移動経路調査において、ペットボトルの蓋を宿貝とした個体、宿貝の小さい個体、宿貝のない個体を確認した場合には、速やかに当該地点の海岸部に宿貝の供給を行うものとし、その利用状況を確認しつつ、追加供給などを適切に行う考え。



地点14 ※重要な種の保護の観点 崖地の崩壊、砂浜の減少の様子

表3 オカヤドカリ類の生息状況調査の結果

地点番号	オカヤドカリ	コムラサキ オカヤドカリ	ナキ オカヤドカリ	ムラサキ オカヤドカリ	小型個体	オカガニ
※重要な種の保護の観点から表示していません。	1		1,211	109	238	
	1		41	4	20	
	1		1,157	28	233	
			562	113	91	1
			205	32	26	
			465	31	59	
			574	43	134	1
	1		1,085	311	17	
			352	34	18	
			512	19	7	

表4 宿貝(貝殻)の収集結果

供給元	宿貝の殻長		合計
	3cm以上	3cm未満	
キャンプ地区	20	1,998	2,018
59(二見)	20	2,065	2,085
143(松田)	17	206	223
122(久志)	11	1,642	1,653
嘉陽	9	2,639	2,648
合計	77	8,550	8,627